

# 饗庭三坊と城

戦国時代の末になると、高島郡では「饗庭三坊」が有力土豪として台頭してきます。

永祿9年（1566）高島郡への影響力を強める浅井長政は、善積荘（現在の今津町南部）・河上荘（今津町北部）のほか、木津荘（新旭町北部）・保坂関の取り分の一部を、西林坊・定林坊・宝光坊にあてがっています。

饗庭三坊について、地元ではさまざまな呼び名や伝承が語り継が



吉武城跡の堀

れています。

『高島郡誌』には、「吉武吉岐守の長子が西林坊と号し日爪村に、次子が定林坊を号し霜降村に、季子（末子）が吉武吉岐守と称し、五十川村の吉武城にいた」と記されています。

この三つの坊は、他の文献史料からもその実在を確認することができますことから、西林坊、定林坊、宝光坊が「饗庭三坊」であったと考えられます。

新旭町の南部では、清水山城や新庄城が築かれるのに対し、北部の木津荘の範囲には、日爪城や饗庭館、そして五十川城やその城下と考えられる吉武城が築かれています。

応永29年（1422）に作成された『木津荘検注帳』には、日爪城が位置する丘陵のふもとに「西林坊」の地名が、享祿2年（1529）の『饗庭又三郎売券』には「霜降定林坊」の名が記されています。

また、五十川村には「宝光坊」の地名や、吉武吉岐守との関係が推測できる「吉武」の名も見られ



日爪城からの眺望

ます。

吉武吉岐守については、天正10年（1582）織田信長の加賀一向一揆の討滅前後に、鳥越城（石川県白山市）の城主として、その名が見られるほか、慶長3年（1598）に村上頼勝が入城する村上城（新潟県村上市）の田口曲輪は、村上氏の筆頭家老であった吉武吉岐守とその家臣団「山衆」の居住地として「吉岐殿丸」とも呼ばれています。

昭和61・62年の国道161号バイパス建設に先立ち実施された吉武城跡の発掘調査では、16世紀後

半の掘立柱建物跡や区画性のある堀跡などが見つかっています。

堀跡からは土器とともに阿弥陀石仏や一石五輪塔などの石造物が出土しています。これらには火をうけた痕跡が認められるとともに、多くの石材が投棄されたような状態で見つかっています。

元龜3年（1572）織田信長の命をうけた明智光秀は、「饗庭三坊の城下まで放火し、城を三箇所落とした」ことを書状に記しています。

発掘調査で見つかった吉武城跡の堀跡からの出土物は、落城や城の廃絶が推測できる資料として注目されます。

## 文化財課

☎(32) 4467

## 編集者のつづき

早くも今年最後の月になりましたね。12月というクリスマスらしい浮かべる方も多いのではないのでしょうか。現在、オレンジリボンキャンペーン（児童虐待防止の啓発活動）の一環として、市役所1階に大きなツリーを設置しています。来庁された時は、ぜひツリーをご覧ください。子どもを想う気持ちなどをカードに書いてツリーに飾り付けてください。みんなで虐待防止について考えましょう。

(広報担当 S)